

# 母乳代用品の不足についてのABMの声明

## ABM STATEMENT ON SHORTAGE OF BREASTMILK SUBSTITUTES

<https://www.bfmed.org/statement-on-shortage-of-breastmilk-substitutes>

(訳注：米国における母乳代用品の不足についての声明ですが、他の地域でも同じような状況が起こる可能性があり、その対応については共通する事柄が多いので、翻訳して紹介します。)

ABMは母乳代用品（乳児用調整乳：以下人工乳）の不足が地域によっては危機的なレベルに達したと認識し、この危機が落ち着くまで、母親と乳幼児の安全と健康を支援するために、以下の提案を推奨する。

### 現在、妊娠中もしくは出産前の方へ：

- 赤ちゃんが生まれてからの栄養方法を計画したり決めたりするとき、人工乳が不足しているかもしれない可能性や人工栄養のリスクを考慮しましょう。産前の母乳育児教室に参加し、母乳育児を支援してくれる医療提供者や病院に連絡をとりましょう。

### 現在、母乳で育てていない、もしくは現在母乳分泌のない方へ：

- 母乳復帰（母乳分泌再開）を考慮しましょう。  
母乳復帰<sup>14</sup>は、母乳分泌が全部もしくは部分的になくなった出産後の人が、母乳産生を再開する過程のことです。（注：母乳復帰を試みる場合は、専門的なスキルのある母乳育児支援提供者もしくは母乳育児を専門とする医師に相談しましょう。この過程は、とりわけ産後の時間が経っている場合は、難しいことがあります。）
- 購入できる可能性や手段があるなら、認定された母乳バンクからの低温殺菌母乳の入手を考慮しましょう。
- 他人の母乳を使うことを考えている場合は、安全性を考慮しましょう。起こりうるリスクと利点についての情報を得て決定し、提供者のスクリーニングと短時間低温殺菌も検討しましょう<sup>5</sup>。その社会や文化によっては、昔からそして今も行われてきた方法ですが、乳母や親戚、友人が母乳を与えるということもあります。（注：この方法は信頼のおける親戚や友人のみの間で行われるべきで、感染性疾患がないという検査を受けておくのが理想的です）
- 「自己流で」人工乳を作ることはやめましょう。その前に、赤ちゃんの主治医にまず相談しましょう。
- 人工乳は容器に書いてある方法以外で調乳してはいけません。指示された方法以外で調乳することは、重篤な、ときには致死的な結果をもたらすことがあります。
- 1歳未満の赤ちゃんに通常の牛乳を飲ませてはいけません。その結果、鉄欠乏性貧血のような重症な疾患が起こり、認知機能の発達が遅れることがあります。（注：緊急の場合は、生後6か月から1歳までの赤ちゃんなら、短期間（数日程度）だけ、牛乳を与えることができます。薄めた人工乳や自家製の人工乳よりは安全だと考えられるからです。1歳未満の赤ちゃんに牛乳を飲ませなければならない場合は、主治医に相談してください。赤ちゃんが鉄欠乏にならないか経過を見てもらう必要があるからです。）
- 入手できるものがそれだけならば、今使っている人工乳のブランドから別のブランドへ変更することはかまいません。（注：赤ちゃんが医学的理由で「特殊ミルク」を使っている場合は、代用品に替える前に主治医もしくは小児専門栄養士と話し合ってください）
- 知らない人や信頼できないサイトから、インターネットで母乳を購入してはいけません。信頼できるところから安全に発注や発送されるかどうか検討してください。地域の母乳育児専門家

に支援を頼みましょう。

- 無駄にならないように、赤ちゃんが飲むだけの量を哺乳びんに入れましょう。
- 人工乳の代わりとして、1日2～3回以内の固形食（訳注：いわゆる離乳食）を与えてよい時期や、それが適切かどうかについて、赤ちゃんの主治医に相談してください。
- 赤ちゃんが生後6か月未満なら、水、お茶、果汁を与えてはいけません。

#### 現在、混合栄養の方へ：

- 人工乳が不足している間は、母乳だけにしてみることを考えましょう。赤ちゃんの健康によいだけでなく、現在の人工乳不足をいくらか緩和する役に立つでしょう。（注：母乳産生量を増やす必要があるなら、スキルを備えた母乳育児支援専門家か母乳育児に詳しい医師に相談しましょう<sup>14</sup>。赤ちゃんの主治医と話し合うことをお勧めします。というのは、母乳産生が増えるのに合わせて徐々に母乳だけに戻していく必要があるからです。赤ちゃんの主治医は赤ちゃんの成長が順調であるかどうかを見守ってくれます。）
- 購入できる可能性や手段があるなら、認定された母乳バンクからの低温殺菌母乳の入手を考慮しましょう。
- 「自己流で」人工乳を作ることはやめましょう。その前に、赤ちゃんの主治医にまず相談しましょう。
- 他人の母乳を使うことを考えている場合は、安全性を考慮しましょう。起こりうるリスクと利点についての情報を得て決定し、提供者のスクリーニングと短時間低温殺菌も検討しましょう<sup>5</sup>。その社会や文化によっては、昔からそして今も行われてきた方法ですが、乳母や親戚、友人が母乳を与えるということもあります。（注：この方法は信頼のおける親戚や友人のみの間で行われるべきで、感染性疾患がないという検査を受けておくのが理想的です）
- 人工乳は容器に書いてある方法以外で調乳してはいけません。指示された方法以外で調乳することは、重篤な、ときには致命的な結果をもたらすことがあります。
- 1歳未満の赤ちゃんに通常の牛乳を飲ませてはいけません。その結果、鉄欠乏性貧血のような重症な疾患が起こり、認知機能の発達が遅れることがあります。（注：緊急の場合は、生後6か月から1歳までの赤ちゃんなら、短期間（数日程度）だけ、牛乳を与えることができます。薄めた人工乳や自家製の人工乳よりは安全だと考えられるからです。1歳未満の赤ちゃんに牛乳を飲ませなければならぬ場合は、主治医に相談してください。赤ちゃんが鉄欠乏にならないか経過を見てもらう必要があるからです。）
- 入手できるものがそれだけならば、今使っている人工乳のブランドから別のブランドへ変更することはかまいません。（注：赤ちゃんが医学的理由で「特殊ミルク」を使っている場合は、代用品に替える前に主治医もしくは小児専門栄養士と話し合ってください）
- 知らない人や、信頼できないサイトからインターネットで母乳を購入してはいけません。信頼できるところから安全に発注や発送されるかどうか検討してください。地域の母乳育児専門家に支援を頼みましょう。
- 無駄にならないように、赤ちゃんが飲むだけの量を哺乳びんに入れましょう。
- 人工乳の代わりとして、1日2～3回以内の固形食（訳注：いわゆる離乳食）を与えてよい時期や、それが適切かどうかについて、赤ちゃんの主治医に相談してください。
- 赤ちゃんが早産児で、母乳の栄養を強化するためだけに人工乳を使っている場合、赤ちゃんの成長が順調なら、強化を続ける必要があるのか、母乳だけにしてもいいのか、赤ちゃんの主治

医と話し合ってみましょう。

- 赤ちゃんが生後6か月未満なら、水、お茶、果汁を与えてはいけません。

#### 現在、母乳だけで育てている方へ：

- 余っている母乳を、北米母乳バンク協会に認定された地域の母乳バンクや、類似の機関に寄付することを考慮しましょう。
- 北米母乳バンク協会に認定された地域の母乳バンクや、類似の機関に寄付するために、あなたの赤ちゃんが必要とする量以上に母乳産生を増やすことを考慮しましょう。

#### 保健医療専門家へ：

- 最新のエビデンスに基づいた勧告を参照しカウンセリングを行っていることを確認してください。人工乳の補足は医学的適応に限ります<sup>6-7</sup>。
- 人工乳が不足しているという現状を踏まえて、赤ちゃんの栄養をどうするかという重要な決定について家族にカウンセリングしましょう。人工栄養についてのリスクと利点について正確な情報を提供し、家族が真のインフォームド・チョイス（情報を提供された上での選択）ができるようにしましょう。
- 母乳育児を希望する家族を支援しましょう。何をすればよいか、母乳育児について困ったらどこに助けを求めたらいいかについてあらかじめ十分なガイダンスと支援を提供しましょう。そうすることによって、生後早期の段階で母乳育児から脱落することを予防できます。
- 母乳育児、母乳、母乳分泌などの医学的な情報については、ABMのエビデンスに基づくプロトコルを参照してください。[www.bfmed.org/protocols](http://www.bfmed.org/protocols)
- 地域の国際認定ラクテーション・コンサルタント（IBCLC）や母乳育児を専門とする医師と連携してください。

#### 地域、社会、政府へ：

- このような危機が将来起こることを避けるため、今すぐ計画を立てはじめてください。これから赤ちゃんが生まれる家族や最近生まれた家族に、堅固で系統的なリソースと支援を投入し、母乳で育てている赤ちゃんに不必要な人工乳の補足が求められるような事態が少なくなるようにしてください。
- 普遍的な政策と実践を施行し、すべての母親がそれぞれ個別の母乳育児のゴールに到達することができるように保証してください。普遍的な政策と実践とは、「母乳育児がうまくいくための10のステップ」<sup>8</sup>を遵守した、エビデンスに基づく病院での家族ぐるみの母乳育児支援、母親および家族の有給の育児休暇、直接授乳や搾乳を職場で支援すること、母乳育児や母乳分泌に関する専門的なケアが得られ保険適応されることなどです。
- 消費者と保健医療専門家に、母乳代用品が直接マーケティングされることに対する規制とモニタリングを改善してください。「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」を完全な形で採択してください<sup>9-11</sup>。
- 母乳育児をしている母親と乳児が、公共の場で目に見える形で積極的に支援されることを保証してください。

で、そのミッションは母乳育児と母乳分泌、母乳栄養を支援し診療する保健医療専門家を教育しエンパワーすることです。母乳育児の高度な医学的ケアを通して、世界中の人がより健康になることを目指します。学会は質の高い研究や画期的な解決方法を取りまとめ公開したり支持したり共有したりします。そして、専門家が安全で効果的なケアを提供し、家族を育み支援することができるように努力します。[www.bfmed.org](http://www.bfmed.org)

翻訳：NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会  
NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会 (Japanese Association of Lactation Consultants : JALC) は、日本におけるIBCLC (国際認定ラクテーション・コンサルタント) および母乳育児支援者の団体です。<https://jalc-net.jp>  
この翻訳はABMの許可を得ています。  
2022年5月

#### 参考文献：

- 1、 Piovanetti Y, Calderon C, Budet Z, Aparicio RJ, Rivera Rios MV. Breastfeeding, a Vital Response in Emergencies. Pediatrics. February 2022.
- 2、 In a Natural Disaster or Public Health Emergency.  
<https://publications.aap.org/DocumentLibrary/Solutions/PCO/FormsTools/disasterfactsheet.pdf>. Accessed May 16, 2022.
- 3、 Disaster Planning: Infant and Child Feeding | DNPAO | CDC.  
<https://www.cdc.gov/nccdphp/dnpao/features/disasters-infantfeeding/index.html>. Accessed May 16, 2022.
- 4、 Brodribb W. ABM clinical protocol #9: use of galactogogues in initiating or augmenting maternal milk production, second revision 2018. Breastfeed Med. 2018;13(5):307-314. doi:10.1089/bfm.2018.29092.wjb
- 5、 Sriraman NK, Evans AE, Lawrence R, Noble L, Academy of Breastfeeding Medicine's Board of Directors. Academy of breastfeeding medicine's 2017 position statement on informal breast milk sharing for the term healthy infant. Breastfeed Med. 2018;13(1):2-4. doi:10.1089/bfm.2017.29064.nks
- 6、 Kellams A, Harrel C, Omage S, Gregory C, Rosen-Carole C. ABM clinical protocol #3: supplementary feedings in the healthy term breastfed neonate, revised 2017. Breastfeed Med. 2017;12:188-198. doi:10.1089/bfm.2017.29038.ajk
- 7、 Feldman-Winter L, Kellams A, Peter-Wohl S, et al. Evidence-Based Updates on the First Week of Exclusive Breastfeeding Among Infants  $\geq 35$  Weeks. Pediatrics. 2020;145(4). doi:10.1542/peds.2018-3696
- 8、 Ten Steps to Successful Breastfeeding - UNICEF/WHO Baby-Friendly Hospital Initiative (BFHI).  
<http://www.tensteps.org/>. Accessed January 19, 2018.
- 9、 The International Code of Marketing of Breastmilk Substitutes - Baby Friendly Initiative.  
<https://www.unicef.org.uk/babyfriendly/babyfriendly-resources/international-code-marketing-breastmilk-substitutes-resources/the-code/>. Accessed May 16, 2022.
- 10、 Maternal, Newborn, Child and Adolescent Health and Ageing Department.  
<https://www.who.int/teams/maternal-newborn-childadolescent-health-and-ageing/formula-milk-industry>. Accessed May 16, 2022.
- 11、 Scope and impact of digital marketing strategies for promoting breastmilk substitutes.  
<https://www.who.int/publications/i/item/9789240046085>. Accessed May 16, 2022.

問い合わせはこちらへ：

© Copyright 2019 Academy of Breastfeeding Medicine. All rights reserved.

8735 W. Higgins Road, Suite 300 • Chicago, IL 60631

(800) 990.4ABM (USA toll free) • (847) 375.4726 (phone) • (847) 375.4713 Attn: ABM (fax)

Email: [abm@bfmed.org](mailto:abm@bfmed.org)